

「コンクリート構造学(土木・環境系コアテキストシリーズ)」 正誤表

頁	行・図・式	誤	正
76	上から10	$\beta_n = 1 + M_0 / M_d$	$\beta_n = 1 + 2 M_0 / M_{ud}$
	上から11	$= 1 + 2 M_0 / M_d$	$= 1 + 4 M_0 / M_{ud}$
	上から12	M_d :設計曲げモーメント	M_{ud} :軸方向力を考慮しない純曲げ耐力
108	上から13	$\tau_v = \frac{b(x^2 - y^2)V}{2bI_i}$	$\tau_v = \frac{(x^2 - y^2)V}{2I_i}$
	下から6	$\tau_{v\min} = 0, \quad \tau_{v\max} = \frac{Vbx^2}{2bI_i}$	$\tau_{v\min} = 0, \quad \tau_{v\max} = \frac{Vx^2}{2I_i}$
221	[4.2]	$M_u=703\text{kN}\cdot\text{m}, M_{ud}=639\text{kN}\cdot\text{m}$	$M_u=701\text{kN}\cdot\text{m}, M_{ud}=637\text{kN}\cdot\text{m}$
223	[12.1]	誤 $d_0=653\text{mm}$ 。そこで、区切りのよい660mmとする。 $A_{s0}=2\,899\text{mm}^2$ 。これより、6D25(3\,040 mm^2)を採用する。	
		正 $d_0 = 653\text{mm}$ 。 $A_{s0} = 2\,898\text{mm}^2$ 。なお、実際に用いる有効高さは区切りのよい660mmとする。これより、近似的に $j = \frac{7}{8}$ として計算すると $A_s = 2\,804\text{mm}^2$ となり 6D25(3\,040 mm^2)を採用する。	

①

最新の正誤表がコロナ社ホームページにある場合がございます。
 下記URLにアクセスして[キーワード検索]に書名を入力して下さい。
<http://www.coronasha.co.jp>